

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターは、多言語・多文化化する日本社会における課題に取り組もうと、2006年4月に設立されました。このセンター設立には前身があります。ポルトガル語科の学生が中心となって始めた、学校の授業についていけないポルトガル語を母語とするブラジル人児童・生徒たちへの学習支援活動が、センター設立の契機となりました。

多言語・多文化化によって引き起こされる日本国内のさまざまな課題解決の活動に、外国語を専攻する学生たちが実際に参加していくことは、座学では学べない多くのことを体験するまさに「教育」活動でもあります。センターでは、現場と結びついた教育活動をセンターの重要な活動と位置づけ支援するため「多文化コミュニティ教育支援室」を設けています。実は、この支援室で活動する学生たちの実践こそが、センターのエネルギーの源なのです。

協働実践研究の第1回全国フォーラムのオープニングにあたり、こうした学生たちによって制作されたセンターの紹介ビデオを上映いたします。撮影、ナレーション、BGM演奏など、支援室で活動する1～4年生の学生8人（ポルトガル語、朝鮮語、スペイン語、ロシア語、カンボジア語、ドイツ語専攻）が、半年がかりで制作しました。5分程度のビデオです。

【ビデオ・ナレーション】

2003年、先輩たちが始めた小さなボランティア活動が私たちの原点でした。やがてその活動は東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターとして実を結びました。200万人以上の外国人が暮らす日本、よりよい文化社会を目指す取り組みが今、改めて問われています。言葉や文化、習慣に対する差別や偏見のない社会を実現したい、これが私たちの願いです。センターの活動は、教育、研究、社会連携の3つの柱から成り立っています。

「多文化コミュニティ教育支援室」、ボランティア学生たちの支援基地です。いつも多くの学生たちと専任スタッフでにぎわっています。4,000人足らずの大学ですが、これまでに500人以上の学生がボランティア登録をしています。活動

に関する意見交換やユニークなアイデアが生まれるのもこの部屋です。

国際理解教育授業、学生たちは地域の小中学校の先生方と協力して、子どもたちが異文化への関心や理解を深められるようにさまざまな工夫を凝らした授業に取り組んでいます。授業には留学生たちも登場して、母国の文化や習慣を直接紹介します。子どもたちのさまざまな反応や感想が、私たちの励みになる場でもあります。日本語学習支援、外国にルーツを持つ子どもたちに彼らの国の言葉を話せる学生たちが日本語の学習や勉強のお手伝いをしています。

センターにかかわる教員たちが自発的に企画、運営しているのが **Add-on-Program** です。正課授業科目であるこのプログラムでは、グループワーク、第一線の研究者や実践者によるゲスト講義、ボランティア実習などさまざまな試みが行われています。

多文化社会で求められる人材とは何か、行政や地域、社会、企業との連携の在り方とは、そして市民はどうあるべきなのか、研究部門では、大学内外のメンバーによる研究班がそれぞれのテーマで研究を重ねています。研究班は各テーマに基づいて各地でプレフォーラムを開催しました。こうしたプレフォーラムを通して、研究者と実践者、そして当事者の連携を模索し、分野を超えた成果を社会に還元することを目指しています。プレフォーラムでは、多文化コーディネーターやソーシャルワーカーの在り方、外国人住民政策の課題、外国につながる子どもたちを地域ぐるみで支援するモデルの構築など、さまざまなテーマが用意されています。そのプレフォーラムの集大成が多文化協働実践研究・全国フォーラムです。

センターではさまざまな社会連携を模索しています。そのひとつが、在日外国人児童のための学習教材の開発です。また、災害発生時に外国人住民を支援するための用語集を作成するなど、さまざまな問題解決にも取り組んでいます。センターでは各地で行われている外国人住民向けの相談会に、ボランティア通訳として教職員や大学院生などを派遣しています。さまざまな問題を抱えて暮らす外国人住民の方々、私たちは彼らの訴えを彼ら自身の言語で聞き取っていきます。さらに、彼らが抱える問題は各分野の専門家たちに引き継がれ、適切に対処されるようになっていきます。

より一層進んでいる多言語・多文化社会、急激な変化の中で生まれてくる摩擦や問題に正面から取り組みたい、多言語・多文化を障害ではなく喜びと感じられる社会、共に生きることのできる社会を求めて、私たちの模索は続きます。

(ビデオ終了)



青山 亨

総合司会・青山 亨 おはようございます。ようこそいらっしゃいました。私は東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターの副センター長をしております、青山亨です。ふだんは学部でインドネシア語を教えている教員ですが、副センター長として、本日の全体会の司会をさせていただきます。

伊東祐郎 皆様、おはようございます。朝早くからこちら府中までお越しいただきましてありがとうございます。同じく多言語・多文化教育研究センターの副センター長をしております、伊東祐郎と申します。明日、2日目の総合司会を担当します、どうぞよろしく申し上げます。



伊東祐郎

青山 今日は、まず東京外国語大学長・亀山郁夫の開会の挨拶、そして本学の多言語・多文化教育研究センター・センター長・高橋正明からの趣旨説明、最後に2日間にわたって行われる各研究班分科会の概要を各班から報告していただくという順序で進めてゆきます。

